

病床数適正化事業による病床削減について

構想区域名: 下関保健医療圏

対象医療機関名: 下関市立市民病院

1 地域の状況			
地域の現状と課題		下関医療圏について、地域医療構想の必要病床と令和7年度病床機能報告を比較すると、急性期が396床、慢性期が15床過剰である一方で、高度急性期が10床、回復期が133床不足という状況である。人口減少・高齢化に伴う中長期的な患者像の変化に対応するため、地域全体として回復期機能の強化が課題となっている。	
2 自施設の状況			
自施設の現状 (変更前)		当院は高度急性期10床、急性期286床、回復期20床、休床中60床を保有している。令和6年6月より下関市救急輪番病院が4病院から3病院体制となることを受け、救急輪番日に対応する看護人員の確保が急務となった。特に夜勤人員の確保が困難となったため、病棟単位での削減をする必要があり、令和6年6月より回復期54床を休床とした。	
病床数削減について	削減の内容 削減の理由について	休床中60床のうち54床を削減する。 削減理由は ①看護師等の人材不足によって、人員配置を適正化する必要が生じたため。 ②削減する病床は現在休床状態であり、人的資源をはじめとする経営資源の最適化を図るため。 ③当該病床を削減した場合でも、市民病院として担う役割・機能は変わらず、利用者へ提供するサービスに影響はないため。	
	対象の病棟・病床の概要	削減する病床は、休床60のうち54床で令和6年6月より休床(休棟)中である。	
	新興感染症に係る協定 締結医療機関の確保病床について	新興感染症に係る協定の締結の有無について	協定あり・協定なし
		今回の削減が当該協定の確保病床に与える影響について	医療措置協定における確保病床は26床であるが、今回削減する病床は、当該確保病床ではないので、協定への影響はない。
3 病床削減をしても入院医療の継続に支障がない理由			
理由		従前より休床中の病床を削減するにすぎず、病床稼働率の実績からみて病床が不足している状況ではないため、継続的な入院医療を今後も提供できるものとする。	

【参考】対象区分別の削減(計画)病床数

対象区分	R6	削減時期	R7	削減時期	R8	削減時期	計
高度急性期							
急性期							
回復期					54(休床中)	2026/12/31	54(休床中)
慢性期							
合計					54(休床中)		54(休床中)

【参考: R7病床機能報告(下関保健医療圏の状況)】

病床区分		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・ 廃止予定	合計
報告	①R7(2025)現状	254	1,252	934	1,310	332	4,082
	②R8(2026)予定	254	1,277	917	1,310		3,758
構想	③R7(2025)必要数	264	856	1,067	1,295		3,482
④構想との差(R7)(①-③)		△ 10	396	△ 133	15	332	600
⑤構想との差(R8)(②-③)		△ 10	421	△ 150	15		276

対応方針（2025プラン）の変更（下関市立市民病院）

病床機能報告における 病床数（7月1日時点）			対応方針（2025プラン）の内容					備考 （対応方針の実 施予定時期等）
機能 区分	R7 現在	R8 予定	病院の特徴・役割	今後の方針	機能別病床数（2025）			
					機能 区分	現行	変更後	
高 度 急性期	10	10	・高度急性期・急性期機能を担う地域における 中核病院の一つである。 ・地域医療支援病院、紹介受診重点医療機関、 救急告示病院、災害拠点病院、在宅療養後方支 援病院、第二種感染症指定医療機関。 ・5疾病6事業のうち、がん、脳卒中、心筋梗塞 等の心血管疾患、糖尿病、救急医療、災害時に おける医療、へき地の医療、新興感染症等に力 を入れ、下関医療圏の中核病院としての役割を 果たしている。	・将来の医療需要を見据え、休床中の54床を削 減することにより、医療従事者をはじめとする 限られた医療資源を最大限効率的に活用する。 ・地域全体で持続可能な医療体制が維持できる よう、医療を取り巻く環境の変化に適切に対応 しながら、より一層、診療機能の充実に努め、 引き続き高度急性期・急性期機能を担う下関医 療圏の中核病院としての役割を果たしていく。 ・なお、再編統合後の機能別病床数については 「調整中」である。 （新下関市立病院整備基本計画（2026年6月） においては、364床（HCU12床、急性期346床、 感染症6床）の病院となる想定であることが下 関市より発表されている。）	高 度 急性期	10	10	令和8年12月 実施予定
急性期	286	286			急性期	286	286	
回復期	20	20			回復期	20	20	
慢性期					慢性期			
休 棟	60	60			休 棟	60	6	
合 計	376	376			合 計	376	322	

病床数適正化事業による病床削減について

構想区域名：下関保健医療圏

対象医療機関名：独立行政法人地域医療機能推進機構下関医療センター

1 地域の状況			
地域の現状と課題		下関医療圏について、地域医療構想の元で急性期4病院の再編統合において当院と下関市立市民病院が2031年度の統合に向けて、令和8年3月に基本合意が締結されたところである。当地域は人口減少・高齢化に伴う中長期的な患者像の変化に対応するため、地域全体として急性期病院の再編の議論が継続されている。	
2 自施設の状況			
自施設の現状 (変更前)		当院は、急性期275床(うち休床37床)を保有している。 しかし、看護師等の人材確保が困難な状況が続いており、現稼働中の病床の維持が限界となっている。今後も人材確保が困難と予想されるため、現休床中の病棟を削減したい。	
病床数削減について	削減の内容 削減の理由について	急性期37床を削減する 削減理由は、 ①看護師等の人材不足によって、今後も人材確保が困難が予想されるため。	
	対象の病棟・病床の概要	削減する病床は、急性期37床で平成21年11月より休床中である。	
	新興感染症に係る協定 締結医療機関の確保病床について	新興感染症に係る協定の締結の有無について	協定あり・協定なし
		今回の削減が当該協定の確保病床に与える影響について	削減する病床は、当該確保病床ではないので、当該協定への影響はない
3 病床削減をしても入院医療の継続に支障がない理由			
理由		従前より休床中の病床を削減するにすぎず 削減後の残り238床に、人的・物的資源を集約し、病床の稼働率を維持することで、継続的な入院医療を今後も提供できるものとする。 なお、地域全体として過剰と見込まれる急性期の病床を削減し、地域医療構想の実現にも資する一因となるものとする。	

【参考】対象区分別の削減(計画)病床数

対象区分	R6	削減時期	R7	削減時期	R8	削減時期	計
高度急性期							
急性期					37	2026/9/30	37
回復期							
慢性期							
合計					37		37

【参考：R7病床機能報告(下関保健医療圏の状況)】

病床区分		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休床・ 廃止予定	合計
報告	①R7(2025)現状	254	1,252	934	1,310	332	4,082
	②R8(2026)予定	254	1,277	917	1,310		3,758
構想	③R7(2025)必要数	264	856	1,067	1,295		3,482
④構想との差(R7)(①-③)		△ 10	396	△ 133	15	332	600
⑤構想との差(R8)(②-③)		△ 10	421	△ 150	15		276

対応方針（2025プラン）の変更（下関医療センター）

病床機能報告における 病床数（7月1日時点）			対応方針（2025プラン）の内容					備考 （対応方針の実 施予定時期等）
機能 区分	R7 現在	R8 予定	病院の特徴・役割	今後の方針	機能別病床数（2025）			
					機能 区分	現行	変更後	
高 度 急性期	96	96	・ 高度急性期と急性期機能を担う。	・ 将来の医療需要を見据えるとともに、医師・ 看護師等の限られた医療資源を最大限効率的に 活用するため、現在休床中の病床を37床減ら し、許可病床数を現稼働中の238床で運用し ていきたい。	高 度 急性期	96	<u>96</u>	令和8年9月 実施予定
急性期	189	179			急性期	179	<u>142</u>	
回復期					回復期			
慢性期					慢性期			
休 棟					休 棟			
合 計	285	275			合 計	275	<u>238</u>	

病床数適正化事業による病床削減について

構想区域名: 下関保健医療圏

すみだ内科クリニック

1 地域の状況			
地域の現状と課題		下関医療圏について、地域利用構想の必要病床と令和7年度病床機能報告を比較すると、高度急性期が10床、回復期が133床不足という状況である。人口減少・高齢化に伴う中長期的な患者像の変化に対応するため、地域全体として回復期機能の強化が課題となっている。	
2 自施設の状況			
自施設の現状 (変更前)		当院は、回復期18床を保有している。 しかし、看護師等の人材確保が困難な状況が続いており、当直に対応できる少数の看護師に過度の負担がかかっている状況である。時間外診療、緊急往診、総合病院への速やかな紹介に努めたところ、結果的に稼働率の低下が続き、直近3月は稼働率0%であった。 在宅療養支援のため、必要な入院には対応できる体制を維持しつつ、クリニック全体の人的資源をはじめとする経営資源の最適化を迫られている状況にある。	
病床数削減について	削減の内容 削減の理由について	13床を削減する。 削減理由は、 ①看護師等の人材不足によって、人員配置を適正化する必要が生じたため ②現在当該病床は空床中であり、限られた人的資源で業務効率化を図る必要があるため。	
	対象の病棟・病床の概要	削減する病床は空床となっている。	
	新興感染症に係る協定 締結医療機関の確保病床について	新興感染症に係る協定の締結の有無について	協定あり ・ 協定なし
		今回の削減が当該協定の確保病床に与える影響について	
3 病床削減をしても入院医療の継続に支障がない理由			
理由		空床中の病床を削減するにすぎない。 入院基本料を満たす看護師を確保しており、入院設備もととのっている。在宅療養支援のため、継続的な入院医療を今後も提供できるものとする。	

【参考】対象区分別の削減(計画)病床数

対象区分	R6	削減時期	R7	削減時期	R8	削減時期	計
高度急性期							
急性期							
回復期			1	2025/8/31	13	2026/10/31	14
慢性期							
合計			1		13		14

【参考: R7病床機能報告(下関保健医療圏の状況)】

病床区分		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・廃止予定	合計
報告	①R7 (2025)現状	254	1,252	934	1,310	332	4,082
	②R8 (2026)予定	254	1,277	917	1,310		3,758
構想	③R7 (2025)必要数	264	856	1,067	1,295		3,482
④構想との差(R7) (①-③)		△ 10	396	△ 133	15	332	600
⑤構想との差(R8) (②-③)		△ 10	421	△ 150	15		276

対応方針（2025プラン）の変更（すみだ内科クリニック）

病床機能報告における 病床数（7月1日時点）			対応方針（2025プラン）の内容					備考 （対応方針の実 施予定時期等）
機能 区分	R7 現在	R8 予定	病院の特徴・役割	今後の方針	機能別病床数（2025）			
					機能 区分	現行	変更後	
高 度 急性期			在宅療養支援、血液透析、腹膜透析、を担って いる。	過剰な病床を削減し、看護師等の医療資源を効 果的に活用し、在宅療養支援のため、必要な入 院機能を維持する。	高 度 急性期			令和8年10月 31日実施予定
急性期					急性期			
回復期	19	18			回復期	18	5	
慢性期					慢性期			
休 棟					休 棟			
合 計	19	18			合 計	18	5	

病床数適正化事業による病床削減について

構想区域名：下関保健医療圏

対象医療機関名：織田クリニック

1 地域の状況			
地域の現状と課題		下関保健医療圏について、地域利用構想の必要病床と令和7年度病床機能報告を比較すると、急性期が396床、慢性期が15床過剰である一方で、回復期が133床不足という状況である。人口減少・高齢化に伴う中長期的な患者像の変化に対応するため、地域全体として回復期機能の強化が課題となっている。	
2 自施設の状況			
自施設の現状 (変更前)		当院は、急性期9床(うち休床9床)を保有している。 しかし、看護師等の人材確保が困難な状況が続いており、平成14年6月より急性期9床を休床中である。 これを契機に、病院全体の人的資源をはじめとする経営資源の最適化を迫られている状況にある。	
病床数削減について	削減の内容 削減の理由について	急性期9床を削減する。 削減理由は、 ①看護師等の人材不足によって、人員配置を適正化する必要が生じたため ②現在当該病床は休床中であり、限られた人的資源で業務効率化を図る必要があるため	
	対象の病棟・病床の概要	削減する病床は、急性期9床で平成14年6月より休床中である。	
	新興感染症に係る協定 締結医療機関の確保病床について	新興感染症に係る協定の締結の有無について	協定あり・協定なし
		今回の削減が当該協定の確保病床に与える影響について	
3 病床削減をしても入院医療の継続に支障がない理由			
理由		従前より休床中の病床を削減するにすぎず、また、地域全体として過剰と見込まれる急性期の病床を削減することは地域医療構想の実現にも資するものとする。	

【参考】対象区分別の削減(計画)病床数

対象区分	R6	削減時期	R7	削減時期	R8	削減時期	計
高度急性期							
急性期					9	2026/11/30	9
回復期							
慢性期							
合計					9		9

【参考：R7病床機能報告(下関保健医療圏の状況)】

病床区分		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休床・廃止予定	合計
報告	①R7(2025)現状	254	1,252	934	1,310	332	4,082
	②R8(2026)予定	254	1,277	917	1,310		3,758
構想	③R7(2025)必要数	264	856	1,067	1,295		3,482
④構想との差(R7)(①-③)		△ 10	396	△ 133	15	332	600
⑤構想との差(R8)(②-③)		△ 10	421	△ 150	15		276

対応方針（2025プラン）の変更（織田クリニック）

病床機能報告における 病床数（7月1日時点）			対応方針（2025プラン）の内容					備考 （対応方針の実 施予定時期等）
機能 区分	R7 現在	R8 予定	病院の特徴・役割	今後の方針	機能別病床数（2025）			
					機能 区分	現行	変更後	
高 度 急性期			・急性期機能を担うが、平成14年6月より休床 中である。	・将来の医療需要を見据えるとともに、医師・ 看護師等の限られた医療資源を最大限効率的に 活用するため、休棟病床9床を減らす。	高 度 急性期			令和8年11月 下旬実施予定
急性期					急性期			
回復期					回復期			
慢性期					慢性期			
休 棟	9	9			休 棟	9	0	
合 計	9	9			合 計	9	0	

病床数適正化事業による病床削減について

構想区域名: 下関保健医療圏

対象医療機関名: すずらんレディースクリニック

1 地域の状況			
地域の現状と課題		下関地区の出生数は年々減少傾向であり、他院含め分娩件数が今後更に減少していくことが予想される。	
2 自施設の状況			
自施設の現状 (変更前)		当院は急性期病床(14床)を有し、24時間体制で分娩や入院の受け入れを行っている。また、下関市の産後ケア事業の実施事業者として登録されており、退院直後の母子に対する心身のケアや育児支援を提供している。現在、産後ケア事業の「宿泊型」利用については病床を活用して対応しているが、よりきめ細かな支援を行うための環境整備が課題となっている。	
病床数削減について	削減の内容 削減の理由について	急性期病床数を14床から12床に減少する。減少2床に関しては、産後ケア専用部屋として改装し、充実したケアを受けられる体制整備を行い、更なる受け入れ態勢強化を図っていく。	
	対象の病棟・病床の概要	急性期病床数を16床から14床に減少する。	
	新興感染症に係る協定 締結医療機関の確保病床について	新興感染症に係る協定の締結の有無について	協定あり ☒ 協定なし
		今回の削減が当該協定の確保病床に与える影響について	
3 病床削減をしても入院医療の継続に支障がない理由			
理由		今後、下関地区の出生数減少により、産婦人科の病床利用率が低下すると推測される。現状の病床利用率は27.9%であり、今後の受け入れ態勢に影響はない。減少分の2床は産後ケア事業への強化に活用していく。	

【参考】対象区分別の削減(計画)病床数

対象区分	R6	削減時期	R7	削減時期	R8	削減時期	計
高度急性期							
急性期					2	2026/10/1	2
回復期							
慢性期							
合計					2		2

【参考: R7病床機能報告(下関保健医療圏の状況)】

病床区分		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・廃止予定	合計
報告	①R7(2025)現状	254	1,252	934	1,310	332	4,082
	②R8(2026)予定	254	1,277	917	1,310		3,758
構想	③R7(2025)必要数	264	856	1,067	1,295		3,482
④構想との差(R7)(①-③)		△ 10	396	△ 133	15	332	600
⑤構想との差(R8)(②-③)		△ 10	421	△ 150	15		276

対応方針（2025プラン）の変更(すずらんレディースクリニック)

病床機能報告における 病床数（7月1日時点）			対応方針（2025プラン）の内容					備考 （対応方針の実 施予定時期等）
機能 区分	R7 現在	R8 予定	病院の特徴・役割	今後の方針	機能別病床数（2025）			
					機能 区分	現行	変更後	
高 度 急性期			・ 地域の産科医療提供施設としての役割を担う	・ 今後の出生数減少を踏まえ、2床減少を行 う。 ・ 引き続き、地域の産科医療提供施設としての 役割を担う。	高 度 急性期			令和8年10 月実施予定
急性期	14	14			急性期	14	<u>12</u>	
回復期					回復期			
慢性期					慢性期			
休 棟					休 棟			
合 計	14	14			合 計	14	<u>12</u>	